

第4学年B組 学級活動指導案

授業者 中田 貴広
研究協力者 鈴木 翔

1 議題 図工室のそうじの仕方をよりよくする工夫を考えよう

2 子どもと議題

(1) 子どもについて

子どもたちが4月に設定したクラスの目標は「七転八起」である。クラスでうまくいかないことや失敗してしまうことがあったとしても、諦めずに何度でも立ち上がることを意識して学校生活を送っている。同時に、学級の改善すべき点も浮き彫りとなっている。この点について折に触れて振り返ることを通して、目指したい姿に近付きたいと考えている子どもが多い。このような学級の諸問題を解決したり、自分たちの生活をよりよいものにするためのアイデアを生み出したりする場として、学級会を大切にしている子どもたちである。

これまでの学級会では、「教育実習の先生たちを送る会をしよう」や「お楽しみ会を開こう」等の集会活動を計画し、実践してきた。また、充実した学校生活を送るために「4Bの学級目標を考えよう」「4Bの係活動を見直そう」を議題として話し合ってきた。

話し合い活動では、司会グループを輪番制で行ってきており、話し合いの進め方には慣れてきているが個人差がある。具体的には、出された意見をまとめることや意図的な指名、時間配分を考えた進行には、まだ課題が見られる。

参加者については、少しずつであるが、建設的な意見や折衷案が出るようになってきた。しかし、発言する児童が偏ったり、自分の意見を曲げずに意固地になったりしている子どもも見られる。そのため、必要に応じて、教師が折り合いをつけて合意形成を図ることの大切さについて助言を必要とする場面が何度があった。

(2) 議題について

本単元では、**議題の趣旨を焦点化し、学級全体にとってよりよい考えをつくり出す**、という資質・能力に育むことを目指している。

これまでの学級での生活を振り返り、学級会で話し合いたいことを募集したところ、図工室での掃除において、「役割分担をしっかりと掃除が雑にならないようにしたい」「掃除中やらなければならないことをバランスよくしたい」などの「掃除の仕方をよりよくしたい」という意見が多数寄せられた。日常の清掃活動では、しっかりと掃除を行う子どもがいる中、ふざけて掃除をせず迷惑をかける子どもも見られ、周りの子どもの中に不満が残ることも少なくない。

そこで、本単元ではこれまでの図工室の掃除の仕方や取り組み方を振り返りそこから学んだことを生かし、よりよい掃除の仕方へと改善していくことができるように、「お試し」の活動を行いこれまでの活動を基に改善点を見つける機会を位置付け活動を構成していく。今後の図工室の掃除の仕方の向上につながる、よりよい考えをつくり出せるように、話し合い活動を行う。

今回は、活動の「お試し」の中で意見の修正や追加が必要なものを取り上げて「工夫考案型」の話し合いに取り組む。話し合いを通して、友達の意見のよさや不十分さは何かを焦点化して、学級にとってよりよい考えをつくり出していく子どもたちの姿を期待して本単元を設定した。

(3) 指導について

先に述べた資質・能力を育むために、異なる意見を基に解決方法を模索し、互いの考えのよいところを生かしながら話し合う「見方・考え方」を活動全体を通して働かせる。自分と相手の意見に修正を加えたり統合したりしながら、学校全体にとってよりよい意見をつくり出す話し合いになるように次のような支援をしていく。

事前の活動では、「役割分担をしっかりとする」「掃除の内容をバランスよくする」掃除とは具体的にどんなものなのかを話し合い、共通理解を図る場を設ける。また、話し合い活動に自分の考えをもって参加することができるように、事前に学級会カードに考えをまとめる活動を設定する。さらに、「図工室のそうじの仕方をよりよいものにしたい」という自分たちの願いを視点として、これまでの掃除の仕方や「お試し」の活動をふり振り返り、掃除の改善に向けた課題や原案の不十分さに気付くことができるようにする。

司会グループは、参加者から出された学級会カードを回収し、意見の傾向がつかめるように事前の打ち合わせを綿密に行う。その際、他と統合できる意見を予想したり、原案の不十分さを見つけるよう助言し、話し合いの方向性を見通すことができるようにする。その上で、話し合いの展開をシミュレートし話し合い活動に臨むことができるようにする。

本時の話し合い活動の「出し合う」段階では、提案理由や話し合いのめあてを視点として、賛成意見と反対意見を出し合った後、改善案によって、原案の不十分さをよりよいものに改善する話し合いを行う。次の「くらべる」段階では自分たちの願いに焦点化した説得力のある具体例や実体験を挙げながら説明させ、改善された原案同士を比べ合わせながら意見を絞り込んでいく。最後の「決める」段階では、絞り込んだ意見をできるだけ多くの納得を得られる改善を加え、まとめていく。よりよい意見を決定した後、納得度の低い児童の意見を聞く場を設ける。また、状況に応じてよりよい合意形成に向けた適切な「話し合いの技」を選択し活用するよう、司会グループに助言していく。

事後の活動では、話し合いで決まったことを実行した上で振り返る機会を設定し、継続した取組になるよう助言する。また、帰りの会などを利用して、友達同士で取組を確認し合う場を設け、お互いのがんばりを認め合うことにより、実践の継続を図るようにしていく。

3 活動の目標〈記号は本校の資質・能力表による〉

- (1) 話し合いの流れを理解し、立場を明確にしながら意見を述べることができる。
〈イ-9・28, ウ-3〉
- (2) 相手の解決すべき課題は何かを焦点化して、学級にとってよりよい考えをつくり出すことができる。
〈ア-11, イ-20・25〉
- (3) 議題の趣旨を生かしながら、自分たちの課題に対する解決策をより建設的に考えようとしている。
〈イ-4・19〉

4 活動の構想 (総時数 2 時間)

4 B の係活動を見直そう
相手の考えのよさ取り入れながら改善の方法を決めることができる。

児童の活動 (・予想される子どもの姿)	教師の主な支援	評価 〈本校の資質・能力との関連〉
<p>学級会で話し合いことを募集し、議題を設定する。 ・お楽しみ会をしたいな。 ・掃除の仕方に問題がある。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・掃除の仕方の課題に気付くことができるよう、アンケートの結果や児童の清掃中の様子、清掃後の図工室の様子を写した写真を提示する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分たちの生活の中から解決の必要な課題を見だし、全体へ話題提示する。 〈イ-4〉
<p>清掃に対する意識をアンケートに記入し、学級の掃除の仕方について見直す。 ・もっときれいにしたいな。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・提案者の原案に対する自分の考えを十分に述べるができるよう、小グループでの情報交換の場を設定するよう司会グループに助言する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・参会者に提案の内容がより具体的に伝わるよう、効果的な伝達方法を選択して提案している。 〈イ-8〉
<p>掃除の意義や掃除の仕方について考える。 ・正しい掃除の仕方がわかったよ。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・話し合いの観点から見ても最もよい案を絞り込めることができるよう、提案者が説得力のある具体例や実体験を挙げながらプレゼンテーションをし、全体で共通理解を図る場を設ける。 	<ul style="list-style-type: none"> ・友達の意見を参考にして、新たな意見や改善案を出している。 〈イ-16〉
<p>学級活動 (1 時間) 「図工室のそうじの仕方を考えよう」の議題で話し合い、「お試し」する候補を絞り込む。 ・役割分担に問題があるよ。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・課題を焦点化して話し合いが進められるよう、「掃除の仕方のポイント」や提案者の原案のよさと不十分さを適宜確認できるような資料をモニターに提示する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・問題を発見し、解決方法について多様な意見のよさを生かして合意形成を図っている。 〈ア-22〉
<p>提案者の原案を全体で「お試し」体験し、感想や意見をカードに書く。 ・もう少し、すばやくできるとよいな。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・よりよい意見をできるだけ多くの納得を得られるよう、納得度を可視化させ、納得度の低い児童の意見を聞く場を設定する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・お互いの意見のよさを尊重しながら課題解決に向けて話し合う。 〈イ-19・26〉
<p>学級活動 (1 時間本時) 「図工室のそうじの仕方をよりよくする工夫を考えよう」の議題で話し合う。 ・掃除の内容をバランスよくしよう。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・話し合いが視点から逸れた場合は、<u>提案理由や「今よりきれいに・今よりはやく・みんなで」(学びのものさし)</u>に立ち返って考えるよう助言する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・決まった意見ができるだけ多くの納得を得られるよう、納得度に違いがある両者の妥協点をすり合わせながら話し合いを進める。 〈ア-22〉
<p>話し合いで決まった掃除の工夫を実践する。 ・前より掃除がしやすくなった。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・改善された原案同士を比べながら意見を絞り込むことができる話し合いとなるよう、状況に応じた「話し合いの技」を選択するよう、司会グループに助言する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・議題の提案理由や話し合いのめあてに立ち返りながら論点を外れることなく話し合う。 〈イ-28〉
<p>実践した活動を振り返る。 ・今後もこの掃除の仕方を続けていきたいな。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・今回の話し合いが次回の活動にフィードバックされるよう、適切に「話し合いの技」を選択できたかという視点で振り返ることができるシートを準備する。 	

◎本活動で育む主な資質・能力
議題の趣旨を焦点化し、学級全体にとってよりよい考えをつくり出す。〈ア-11・イ-25〉

2 学期の学校生活をふり返ろう
学級の課題について話し合い、自分に合ったよりよい解決方法を意思決定し、実行することができる。

5 本時の実際 (2/2)

(1) ねらい

提案者の原案のよさや不十分さを捉え、学級にとって解決すべき課題を焦点化して、図工室の掃除の仕方をよりよくする工夫について話し合うことができる。 (イ-25)

(2) 展開

○「学びのものさし」を働かせて省察したり、自律的に学習を進めるためたりするための支援

時間	学習活動 (・予想される子どもの姿)	教師の支援 評価
3分	① 提案理由や話し合いのポイント、決まっていることを確かめる。 ・工夫して図工室のそうじができるようになるとうい。	・話し合いの視点が明確になるよう、「お試し」の活動の中で最もよかった原案が今回の議論の対象になっていることを全体で確認する場を設ける。
議題 4 Bの掃除の仕方をよりよくする工夫について考えよう。		
3分	② 話し合いの流れを確認する。 ・今日はクラスみんなが納得できる工夫を考えよう。 ・図工室がきれいになるとよいな。 <div style="border: 1px dashed gray; padding: 5px; margin-top: 5px;">話し合いのめあて ・「掃除の仕方のポイント」を使ってクラスが納得できるそうじの工夫を考えよう。</div> <div style="border: 1px dashed gray; padding: 5px; margin-top: 5px;">掃除の仕方のポイント ・よりきれいに ・今よりはやく ・みんなで</div>	・自らが高めたい「話し合いの技」を意識しながら話し合うことができるように、自分のめあてを確かめる場を設ける。 ・「お試し」の活動の改善点を明確にして話し合うことができるように、必要に応じて司会者が参会者に原案の不十分さに着目して話し合いを進めることを伝える場を設定する。 ○友達の意見をよく聞き、参考となる部分を取り入れながら話し合うことができるように、出された意見をよりよい考えに改善している発言を価値付ける。 ○話し合いの流れや考えを捉えやすくするよう、短冊に書かれた複数の意見を線で結んだり、統合した案を書いたりするよう助言する。 ・話し合いが視点から逸れた場合は、 <u>提案理由や「今よりきれいに・今よりはやく・みんなで」(学びのものさし)</u> に立ち返って考えるよう助言する。
4分	③ 提案者の原案の内容を確認する。 ・「お試し」をした活動では今よりはやくする工夫がたりなかったな。	・改善された原案同士を比べなが意見を絞り込むことができる話し合いとなるよう、状況に応じた「話し合いの技」を選択するよう、司会グループに助言する。
25分	④ 掃除の仕方をよりよくする工夫について話し合う。 ・図工室を今よりきれいにするためには… ・掃除中やらなければならないことをバランスよくできないかな。	・よりよい意見をできるだけ多くの納得を得られるよう、納得度を可視化させ、納得度の低い児童の意見を聞く場を設定する。
話し合いのめあてや掃除の仕方のポイントに沿って、図工室の掃除の仕方をよりよくする工夫について話し合っている。 (イ-25) (シート・発言)		
7分	⑤ 図工室での掃除の仕方の工夫を決定する。 ・提案者が考えた原案がよりよいものになってよかった。	・自分の話し合いの仕方や話し合いにおける友達のよさについて振り返ることができるように自己評価と他者評価を交流する時間を設ける。
3分	⑥ 今回の話し合いについて振り返り、次の活動への見通しをもつ。 ・友達のよい意見を取り入れて、図工室の掃除の仕方の工夫が決まりよかった。	・今後の活動への意欲と自己有用感をもつことができるように、話し合いのよさを価値付ける。